

新型コロナウイルス禍による
日常生活や地域福祉への影響に関する
アンケート調査報告書
(概要版)

新潟市西区役所
健康福祉課

《全体結果》

1 生活の変化等について

日常生活について、6割以上が『悪影響があった』と感じている。理由として、「旅行等の外出制限」が最も多く、「各種イベントの開催・参加制限」「友人等の付き合いの悪化」と続いている。

生きがいや趣味の活動について、7割強が『悪影響があった』と感じており、理由として「『活動に参加する』または『活動を行う』ことを自粛した」が最も多い。

以前のようにイベントや行事に参加する・活動するための基準として、約4割が「ワクチンの開発などにより、ある程度終息するまでは行わない」と考えている。

健康づくりなどの運動量について、約4割が「新型コロナウイルス禍以前より運動量が減った」と感じている。気力・体力については、約5割が『低下した』と感じている。気力・体力の低下予防策の内容では、「運動を可能な限り積極的に行っている」「家族の時間を大切にしている」「趣味の活動を可能な限り充実させている」の順に多い。

家族との会話時間について、3割が『増えた』と感じている。一方、家族以外の人（友人や地域の方々など）との会話時間は、5割以上が「会話する時間が減った」と感じている。家族以外の人ともっと話す時間が欲しいと『思う』人は6割以上で、不足している理由として、6割以上が「相手に迷惑が掛からないよう自粛している」と答えている。家族以外の人との会話時間が欲しいと『思わない』人の理由は、「他の人との会話は十分にできている」「新型コロナウイルス対策のため」「一人でいることが好きだから」の順に多い。

新型コロナウイルス禍での不安等を解消するために、5割以上が「感染症等への誹謗中傷をしない『やさしいまちづくり』の推進」「感染症予防・対策の周知、啓発」を大切だと考えている。

2 地域の福祉や活動について

地域活動や地域の行事について、「感染症予防対策を十分に行い、工夫しながら活動や行事を再開するとよい」が「ワクチンや薬の開発があるまでは、このまま自粛を継続するとよい」をわずかに上回っている。

地域活動や行事の自粛により、3割以上が「これまでの行事や活動を見直すきっかけになった」と感じており、「例年行っている地域の行事や活動の大切さが分かった」と感じている人も多い。

地域活動への参加有無について、「現在も参加している」は1割半ばにとどまっている。「過去に参加したことがあるが今はしていない」「これまで参加したことがない」が4割前後で、理由として「多忙で参加する時間がない」「役員や班長などの任期が終わった」「身体的、精神的理由により参加が難しい」の順に多い。

人とのつながりをつくる（保つ）ために、約8割が「住民同士のあいさつや声かけなどの『近所付き合い』が必要だと考えている。

地域のために『現在』協力していることは、約2割が「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」「自治会、町内会、民生委員、消防団などの団体活動や地域活動」と答えているものの、「特にない」が最も多い。『今後』協力可能なことは、「身近な道路や公園などの清掃活動」「自治会、町内会、民生委員、消防団などの団体活動や地域活動」「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」「高齢者や障がい者へのゴミ出しや除雪などのお手伝い」の順に多い。

今後の地域活動を行うために、「感染対策を行った地域の行事や活動の検討」「高齢者等の見守りや買い物など、生活上の困りごとへの支援」「例年行ってきた地域の行事や活動内容の見直し」の順に大切だと考えている。

《調査の概要》

1 調査の目的

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、新しい生活様式が示され国民の生活にも大きな影響が出た。

地域福祉の分野においても様々な影響が出たことから、今後の地域福祉活動の在り方や区民のニーズを捉える資料とするため、西区民を対象とした地域福祉に関するアンケート調査を行うもの。

アンケート調査の結果については、今後の行政や社会福祉協議会の施策の参考とするとともに、各コミュニティ協議会や自治会等にも配布し、今後の地域活動を行う上での参考としていただくことを目的とする。

2 調査の概要

- (1) 回答者属性
- (2) 生活の変化等について
- (3) 地域の福祉や活動について

3 調査の設計

- (1) 調査地域 新潟市西区
- (2) 調査対象 満 18 歳以上の男女
- (3) 標本数 3,000 人
- (4) 抽出方法 無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送法（調査票の配布・回収とも）
- (6) 調査期間 令和 3 年 1 月 15 日～ 2 月 15 日

4 回収結果

有効回収数（率） 1,578 人（52.6%）

	標本数	回収数	回収率
全体	3,000 人	1,578 人	52.6%
内野・赤塚・中野小屋	700 人	361 人	51.6%
小針・小新	800 人	416 人	52.0%
坂井輪	500 人	258 人	51.6%
五十嵐	500 人	288 人	57.6%
黒埼	500 人	255 人	51.0%

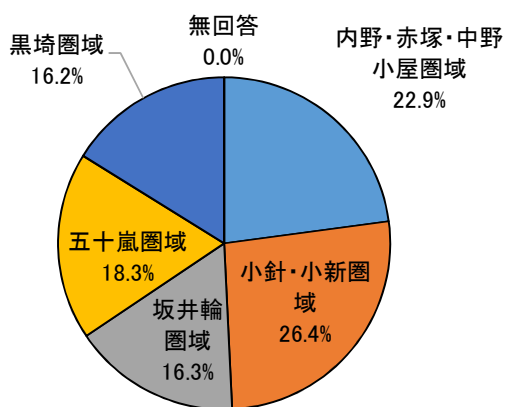
5 集計結果の数字の見方

- (1) 結果は百分率（%）で表示し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計 100%にならないことがある。
また、複数回答（2つ以上の回答）では、合計が 100%を超える場合がある。
- (2) 図表中の「n」は、質問に対する回答者の総数を示し、回答者の比率（%）を算出するための基数である。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

6 回答者属性

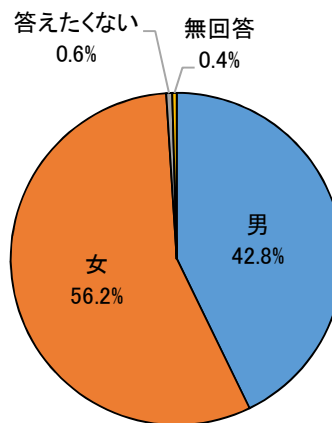
(1) 圏域別

全体(n=1578)



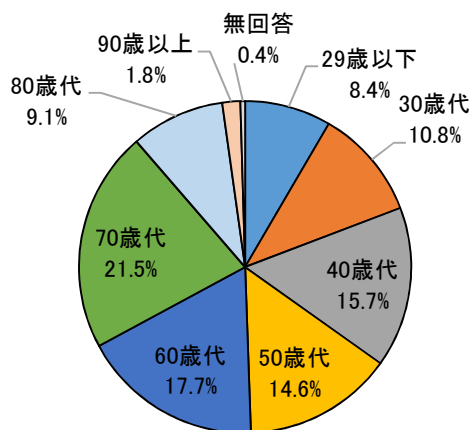
(2) 性別

全体(n=1578)



(3) 年代

全体(n=1578)



《調査の結果》

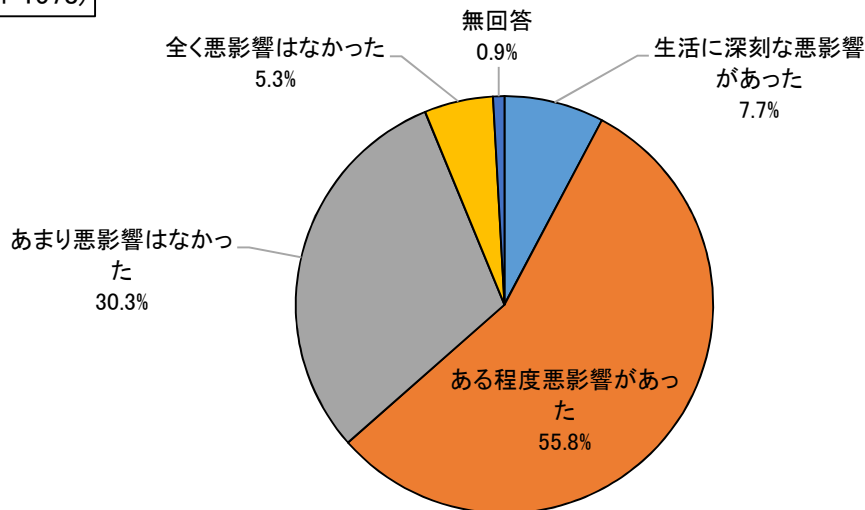
※本冊子は概要版のため、結果グラフは全体結果のみ掲載しております。属性比較（圏域別・性別・年代別）の結果グラフは掲載しておりません。属性比較（圏域別・性別・年代別）の結果グラフをご確認になりたい場合は、別冊のアンケート調査報告書をご覧ください。

1 生活の変化等について

1-（1）日常生活への悪影響の有無

（3）新型コロナウイルス禍の前と現在で、ご自身（またはご家族）の日常生活に悪影響はありましたか。

全体(n=1578)



『悪影響があった』が6割以上

【全体結果】

日常生活への悪影響の有無について、「生活に深刻な悪影響があった」「ある程度悪影響があった」を合わせた『悪影響があった』は、6割を超えている。一方、「あまり影響はなかった」「全く影響はなかった」を合わせた『影響はなかった』は、3割半ばを占めている。

【属性比較】

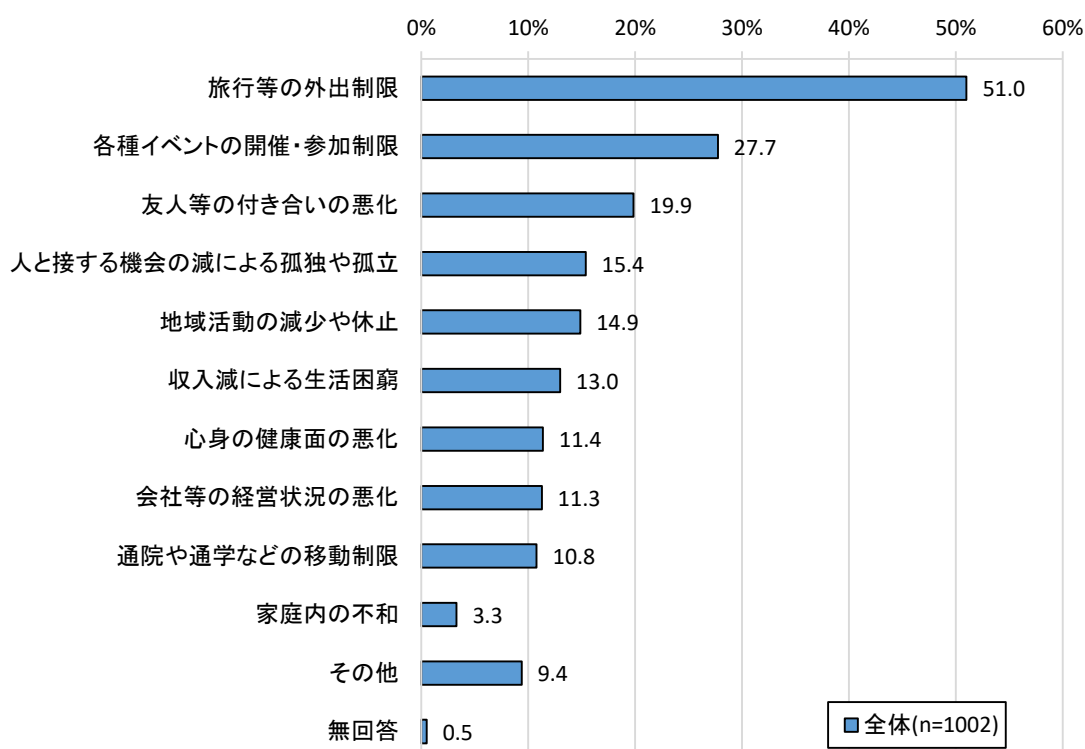
圏域別でみると、小針・小新圏域、坂井輪圏域、五十嵐圏域は『悪影響があった』と答えた割合が高い。

性別でみると、男性より女性で『悪影響があった』の割合が高い。

年齢別でみると、70歳代以下では『悪影響があった』が『影響はなかった』を上回っている。一方、80歳代以上では、『悪影響があった』より『影響はなかった』の割合が高く、特に90歳以上は、『影響はなかった』の割合は約6割半ばを占めている。

1 - (2) 悪影響の内容

(4) 先の設問(3)の回答で1「深刻な悪影響があった」2「ある程度悪影響があった」と答えた方にお聞きします。どのような悪影響がお答えください。(最大2つまで)



「旅行等の外出制限」が5割強

【全体結果】

悪影響の内容について、「旅行等の外出制限」の割合が最も高く、半数を超えている。次いで「各種イベントの開催・参加制限」が3割弱、「友人等の付き合いの悪化」が2割弱、「人と接する機会の減による孤独や孤立」「地域活動の減少や休止」が約1割半ばで続いている。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「旅行等の外出制限」「各種イベントの開催・参加制限」の順に割合が高い。次いで、黒埼圏域を除いた圏域では「友人等の付き合いの悪化」が続く、黒埼圏域では「地域活動の減少や休止」が続いている。五十嵐圏域では「収入減による生活困窮」が、他の圏域と比べて割合が高い。

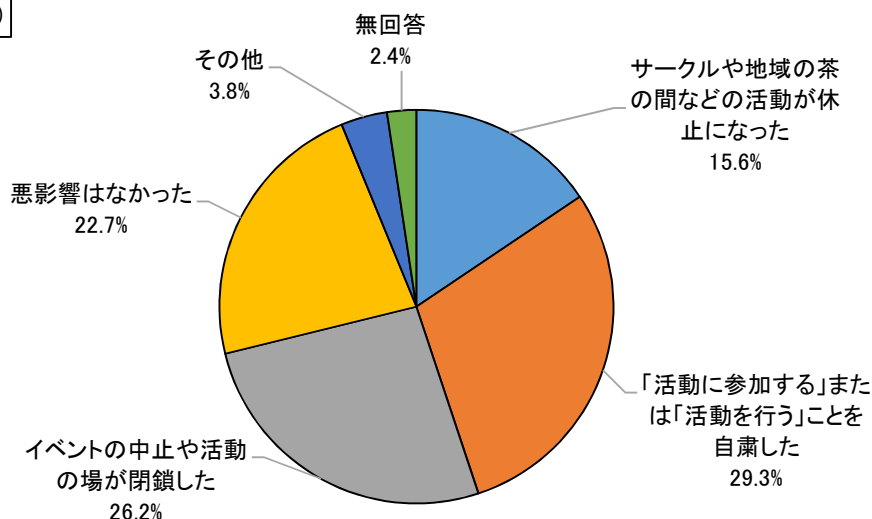
性別でみると、男女とも「旅行等の外出制限」の割合が最も高い。男性は「会社等の経営状況の悪化」が女性より高く、女性は「心身の健康面の悪化」が男性よりも高くなっている。

年齢別でみると、70歳代以下では「旅行等の外出制限」の割合が最も高く、80歳代以上では「人と接する機会の減による孤独や孤立」と答えた割合が最も高い。70歳～80歳代では「地域活動の減少や休止」、70歳代以上では「心身の健康面の悪化」、30歳～50歳代では「会社等の経営状況の悪化」が、他の年代と比べて割合が高い。「各種イベントの開催・参加制限」は、概ね年代が低いほど割合が高い傾向がみられる。

1－（3）生きがい・趣味活動への悪影響

（5）生きがいや趣味の活動にも悪影響がありましたか。悪影響があった場合、具体的な内容をお答えください。

全体(n=1002)



『活動に参加する』または『活動を行う』ことを自粛した」が約3割

【全体結果】

生きがい・趣味活動への悪影響について、『活動に参加する』または『活動を行う』ことを自粛した」が約3割で、割合が最も高い。『活動に参加する』または『活動を行う』ことを自粛した」「サークルや地域の茶の間などの活動が休止になった」「イベントの中止や活動の場が閉鎖した」を合わせた『悪影響があった』は7割強となっている。

【属性比較】

圏域別でみると、内野・赤塚・中野小屋圏域、小針・小新圏域、五十嵐圏域では『活動に参加する』または『活動を行う』ことを自粛した」の割合が最も高い。坂井輪圏域では「イベントの中止や活動の場が閉鎖した」が、黒埼圏域では「悪影響はなかった」が最も高い。

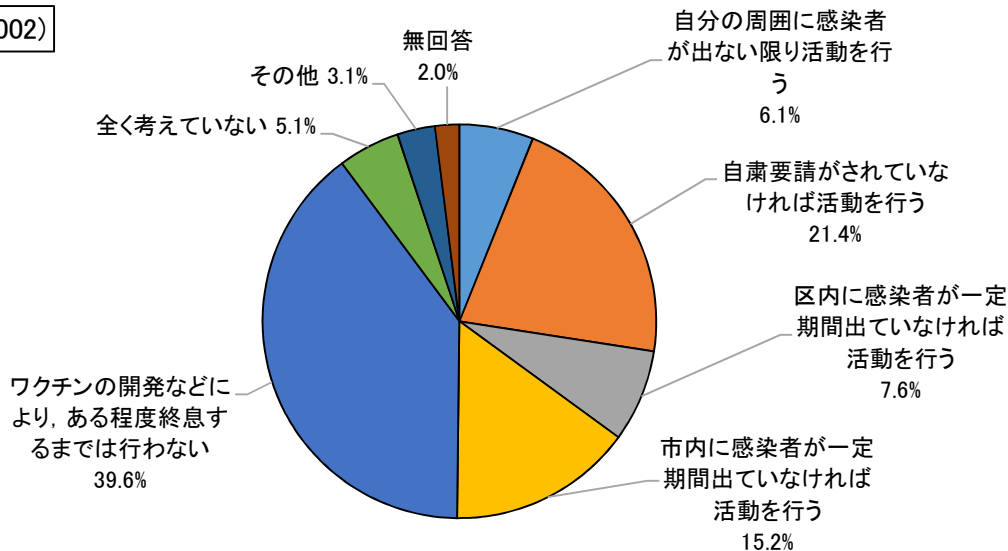
性別でみると、男女とも『活動に参加する』または『活動を行う』ことを自粛した」が最も高い。男性より女性で「サークルや地域の茶の間などの活動が休止になった」の割合が高く、女性より男性で「イベントの中止や活動の場が閉鎖した」「悪影響はなかった」の割合がやや高い。

年齢別でみると、50～70歳代では『活動に参加する』または『活動を行う』ことを自粛した」が最も高く、29歳以下、40歳代では「イベントの中止や活動の場が閉鎖した」が最も高い。80歳代では「サークルや地域の茶の間などの活動が休止になった」が最も高く、30歳代、90歳以上では「悪影響はなかった」が最も高い。概ね、年代が高いほど「サークルや地域の茶の間などの活動が休止になった」の割合が高く、年代が低いほど「イベントの中止や活動の場が閉鎖した」の割合が高い傾向がみられる。

1 - (4) 以前のように活動するための基準

(6) 様々なイベントや行事、サークルや地域の茶の間などの活動が自粛となりましたが、徐々にこれらの活動も再開されてきています。そこで、あなたが以前のように活動に参加する、あるいは活動を行うための基準はどれですか。最も近いものを1つお選びください。

全体(n=1002)



「ワクチンの開発などにより、ある程度終息するまでは行わない」が約4割

【全体結果】

以前のように活動するための基準について、「ワクチンの開発などにより、ある程度終息するまでは行わない」と答えた割合が最も高く、約4割を占めている。次いで「自粛要請がされていなければ活動を行う」が約2割、「市内に感染者が一定期間出ていなければ活動を行う」が1割半ばとなっている。

【属性比較】

圏域別では、あまり大きな差はみられない。

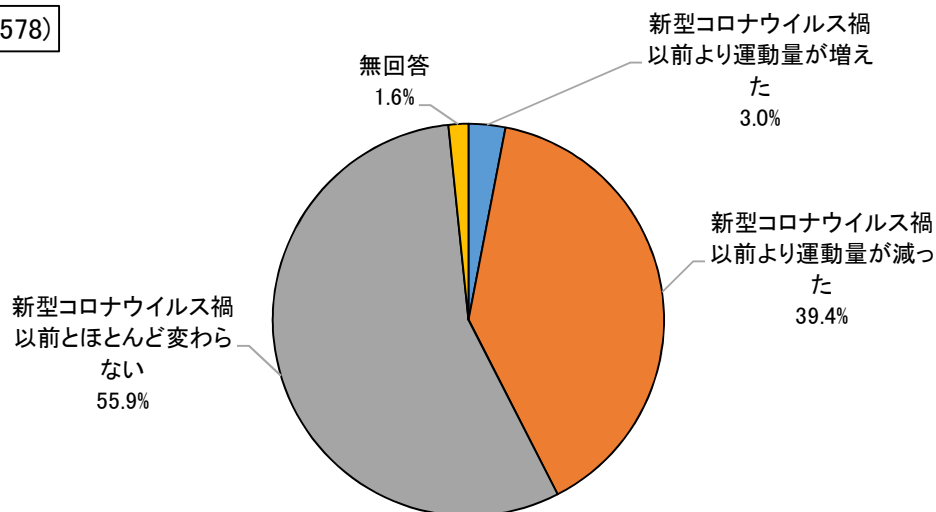
性別では、あまり大きな差はみられない。

年齢別でみると、ほとんどの年齢で「ワクチンの開発などにより、ある程度終息するまでは行わない」と答えた割合が最も高い。90歳以上では、「ワクチンの開発などにより、ある程度終息するまでは行わない」と「全く考えていない」が同じ割合となっている。60～80歳代では、他の年齢層と比べて「自粛要請がされていなければ活動を行う」の割合が高い。

1 - (5) 運動量の変化

(7) 新型コロナウイルス禍以前と現在で健康づくりなどの運動量は変わりましたか。

全体(n=1578)



「新型コロナウイルス禍以前とほとんど変わらない」が5割以上

【全体結果】

運動量の変化について、「新型コロナウイルス禍以前とほとんど変わらない（以下、ほとんど変わらない）」が5割半ばを占めている。「新型コロナウイルス禍以前より運動量が減った（以下、運動量が減った）」が約4割で、「新型コロナウイルス禍以前より運動量が増えた（以下、運動量が増えた）」は5%に満たない。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「ほとんど変わらない」と答えた割合が最も高い。小針・小新圏域、五十嵐圏域では「運動量が減った」と答えた割合が4割を超えている。

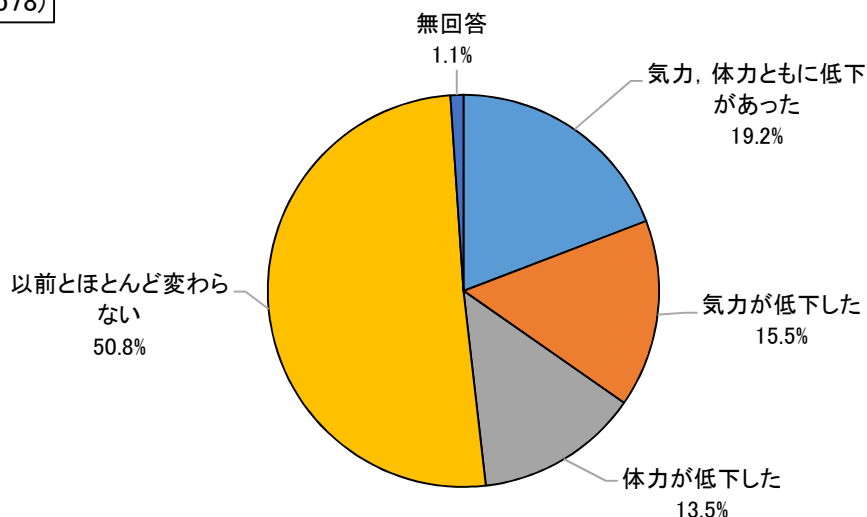
性別では、男女差はみられない。

年齢別でみると、すべての年齢で「ほとんど変わらない」と答えた割合が最も高い。50～80歳代では、「運動量が減った」が4割を超え、特に60～70歳代では4割半ばを占めている。40歳代以下では、他の年齢と比べて「運動量が増えた」がやや高い。

1 - (6) 気力の低下・体力の低下

(8) 新型コロナウイルス禍のために気力の低下や運動不足による体力の低下はありましたか。

全体(n=1578)



『低下した』が約5割

【全体結果】

気力の低下・体力の低下について、「気力、体力ともに低下があった」は約2割、「気力が低下した」が1割半ば、「体力が低下した」が1割強となっており、「気力、体力ともに低下があった」「気力が低下した」「体力が低下した」を合わせた『低下した』は約5割である。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「以前とほとんど変わらない」が最も高い。小針・小新圏域、五十嵐圏域では、「気力、体力ともに低下があった」が2割を超え、他の圏域と比べて割合がやや高い。すべての圏域で『低下した』は4割を超えており、小針・小新圏域では5割を超えている。

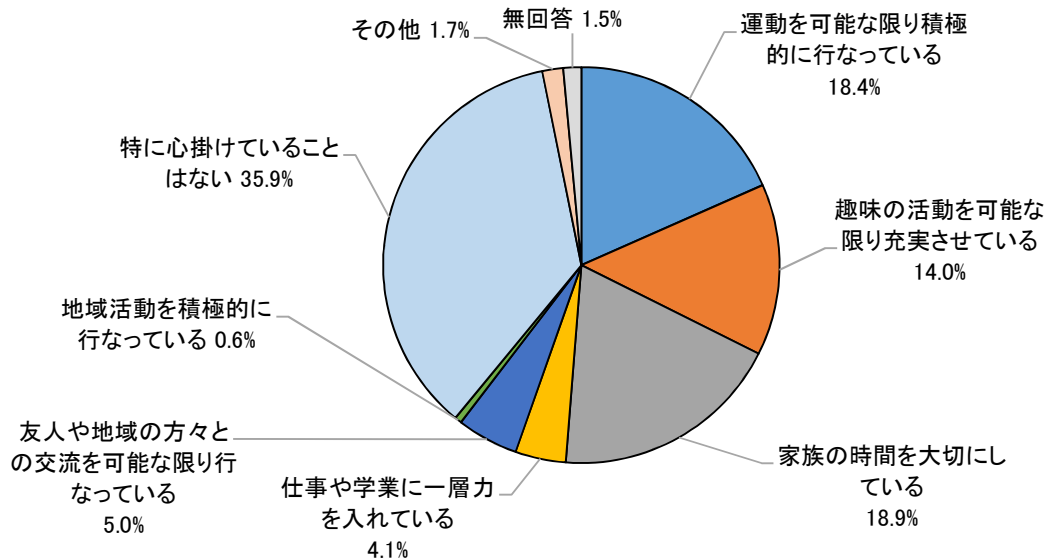
性別でみると、男女とも「以前とほとんど変わらない」が最も高く、特に男性では半数以上を占めている。男性よりも女性で「気力、体力ともに低下があった」「気力が低下した」と答えた割合が高い。

年齢別でみると、すべての年齢で「以前とほとんど変わらない」が最も高い。50歳代、70歳代、80歳代では「気力、体力ともに低下があった」が2割以上を占めている。90歳以上を除くすべての圏域で、『低下した』は4割を超えている。

1 - (7) 気力・体力の低下予防

(9) 新型コロナウイルス禍でも気力や体力が低下しないためにどんなことを心掛けていますか。一番近いものをお選びください。

全体(n=1578)



「特に心掛けていることはない」が3割半ば

【全体結果】

気力・体力の低下予防について、「特に心掛けていることはない」が最も高く、3割半ばを占めている。「運動を可能な限り積極的に行っている」「家族の時間を大切にしている」が2割弱、「趣味の活動を可能な限り充実させている」が約1割半ばを占めている。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「特に心掛けていることはない」が最も高い。次いで高いのは、内野・赤塚・中野小屋圏域、坂井輪圏域、黒埼圏域では「家族の時間を大切にしている」で、小針・小新圏域、五十嵐圏域では「運動を可能な限り積極的に行っている」となっている。

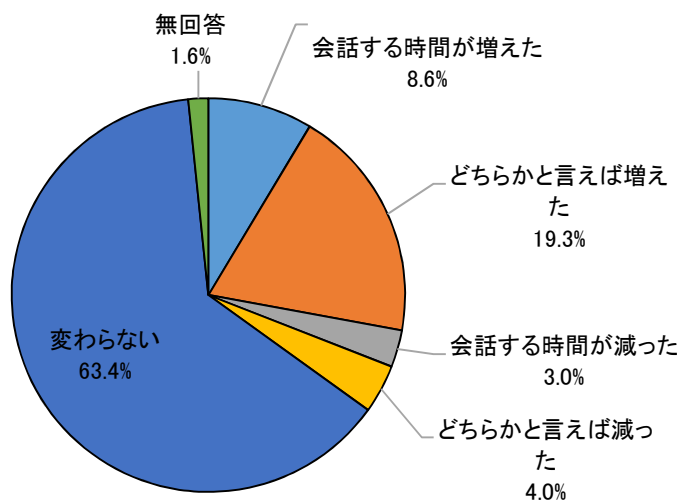
性別でみると、男女とも「特に心掛けていることはない」が最も高い。次いで高いのは、男性では「運動を可能な限り積極的に行っている」で、女性では「家族の時間を大切にしている」となっている。

年齢別でみると、すべての年齢で「特に心掛けていることはない」が最も高い。次いで高いのは、30～50歳代では、「家族の時間を大切にしている」で、70～80歳代では、「運動を可能な限り積極的に行っている」となっている。29歳以下では、他の年齢と比べて「趣味の活動を可能な限り充実させている」が高く、3割弱を占めている。

1 - (8) 家族との会話時間の変化

(10) ご家族と会話する時間は新型コロナウイルス禍の前と現在で変わりましたか。

全体(n=1578)



「変わらない」が6割以上

【全体結果】

家族との会話時間の変化について、「変わらない」が最も高く、6割を超えている。「会話する時間が増えた」「どちらかと言えば増えた」を合わせた『増えた』は3割弱となっている。一方、「会話する時間が減った」「どちらかと言えば減った」を合わせた『減った』は1割弱となっている。

【属性比較】

圏域別での差は、あまりみられない。

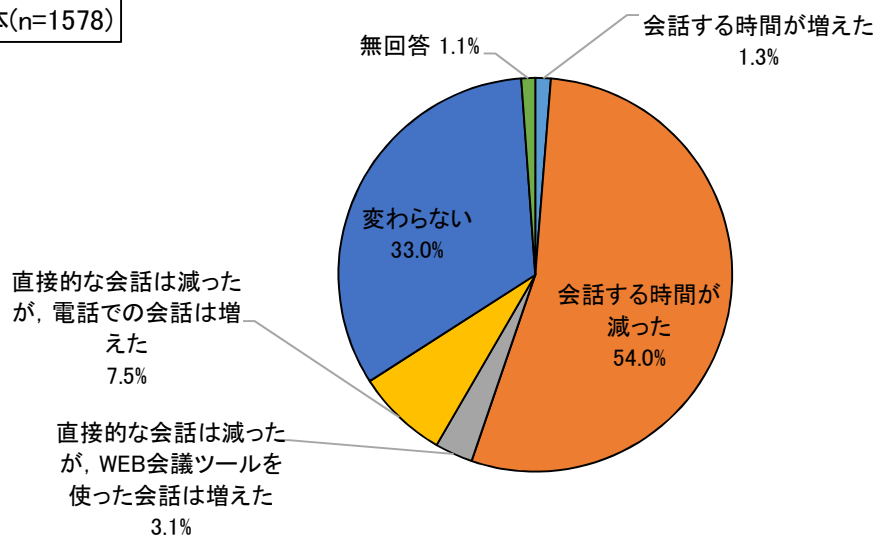
性別でみると、男性より女性で『増えた』と答えた割合がやや高い。

年齢別でみると、すべての年齢で「変わらない」が最も高い。40歳代では、他の年齢と比べて『増えた』と答えた割合が高く、3割半ばを超えている。『増えた』の割合は、40歳代まで年齢が上がるにつれて割合が高く、40歳代をピークに、年齢が上がるにつれて割合が低い傾向がみられる。

1 - (9) 家族以外との会話時間の変化

(11) 友人や地域の方々など、家族以外の人と会話する時間は新型コロナウイルス禍の前と現在で変わりましたか。

全体(n=1578)



『会話する時間が減った』が5割以上

【全体結果】

家族以外との会話時間の変化について、「会話する時間が減った」が最も高く、5割以上を占めている。次いで高いのは「変わらない」で、3割強となっている。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「会話する時間が減った」が最も高く、半数以上を占めている。

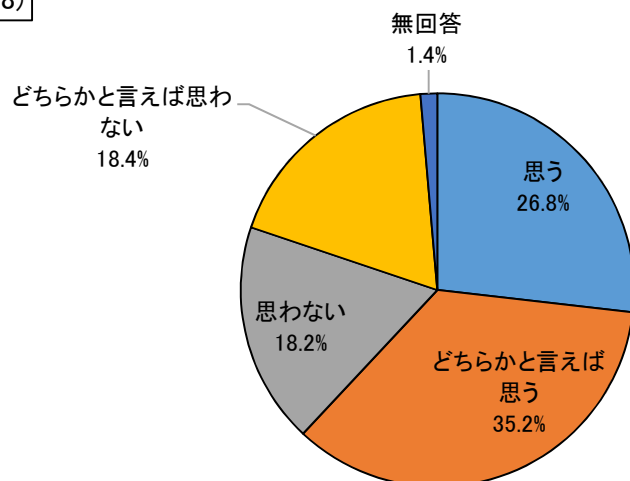
性別でみると、男女とも「会話する時間が減った」が最も高い。特に女性では6割弱を占め、男性より割合が高くなっている。

年齢別でみると、90歳以上は「変わらない」と答えた割合が最も高く、それ以外の年齢では「会話する時間が減った」が最も高い。特に40～50歳代では「会話する時間が減った」が6割以上となっている。29歳以下では「直接的な会話は減ったが、WEB会議ツールを使った会話は増えた」が、他の年齢より割合が高い。70～80歳代では「直接的な会話は減ったが、電話での会話は増えた」が1割を超え、他の年齢より割合が高い。

1 - (10) 家族以外の人との会話意向

(12) 友人や地域の方々など、家族以外の人ともっと話す時間が欲しいと思いますか。

全体(n=1578)



『思う』が6割以上

【全体結果】

家族以外との会話意向について、「思う」「どちらかと言えば思う」を合わせた『思う』は6割を超えている。一方、「思わない」「どちらかと言えば思わない」を合わせた『思わない』は4割弱となっている。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で『思う』が『思わない』を上回っている。特に五十嵐圏域では、他の圏域と比べて『思う』と答えた割合が高い。

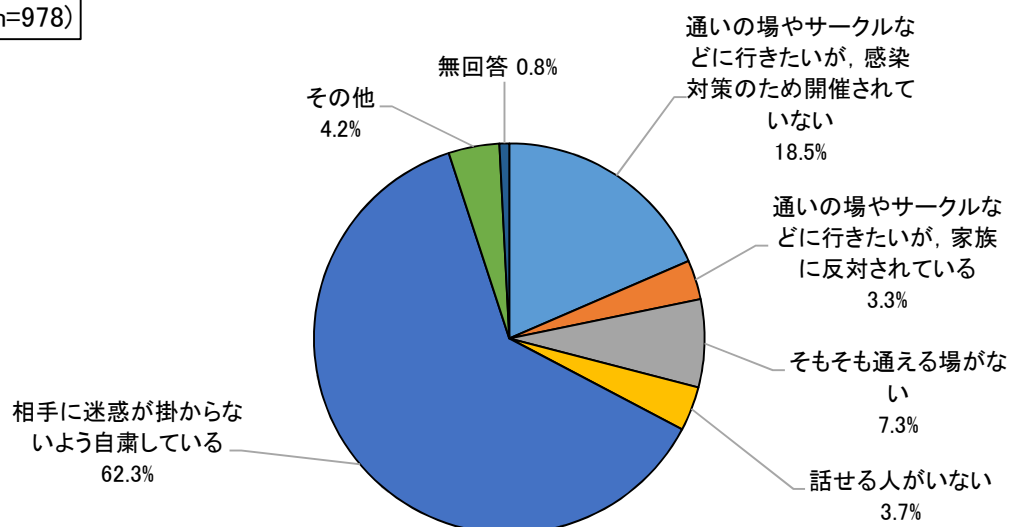
性別でみると、男女とも『思う』が『思わない』を上回っている。男性と比べて女性で『思う』の割合が高く、7割弱を占めている。

年齢別でみると、90歳以上を除く年齢で『思う』が『思わない』を上回っている。90歳以上では、『思う』と『思わない』が同じ割合となっている。30歳代では、他の年齢と比べて『思う』が高く、約7割を占めている。次いで29歳以下が高くなっており、若年層ほど『思う』の割合が高い傾向にある。

1 - (11) 家族以外の人との会話が不足している、あるいはできていない理由

(13) 先の設問 (12) の回答で「思う」「どちらかと言えば思う」とお答えされた方にお聞きします。もっと話したいのに話せていない（あるいは話せる環境がない）場合、もっとも理由に近いものを1つお選びください。

全体(n=978)



「相手に迷惑が掛からないよう自粛している」が6割以上

【全体結果】

家族以外との会話が不足している、あるいはできていない理由について、「相手に迷惑が掛からないよう自粛している」が6割を超え、最も割合が高い。次いで「通いの場やサークルなどに行きたいが、感染対策のため開催されていない」が2割弱、「そもそも通える場がない」が1割弱となっている。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「相手に迷惑が掛からないよう自粛している」が最も高くなっている。坂井輪圏域では、他の圏域と比べて「通いの場やサークルなどに行きたいが、感染対策のため開催されていない」の割合が高く、2割を超えている。

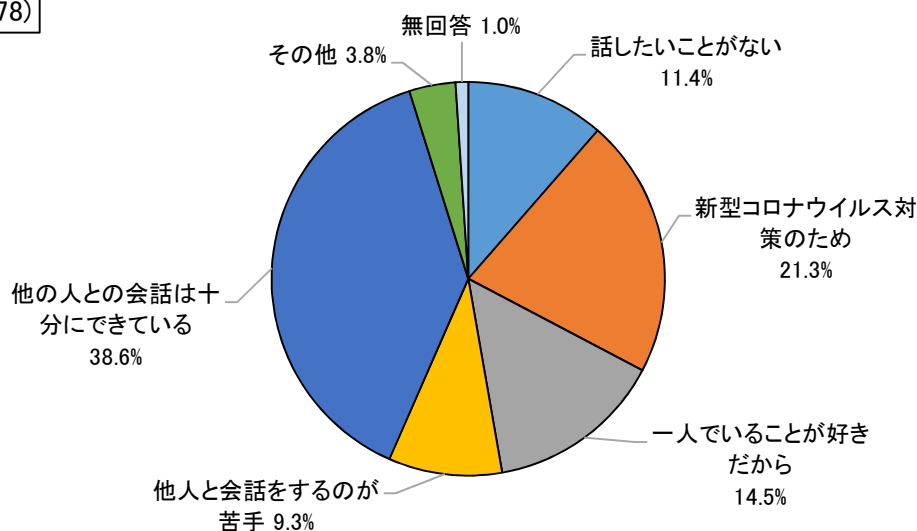
性別でみると、男女とも「相手に迷惑が掛からないよう自粛している」が最も高く、特に男性より女性で割合が高い。男性では「通いの場やサークルなどに行きたいが、感染対策のため開催されていない」が2割を超えている。

年齢別でみると、すべての年齢で「相手に迷惑が掛からないよう自粛している」が最も高く、特に40歳代、60歳代では7割弱を占めている。30歳代以下、80歳代では「通いの場やサークルなどに行きたいが、感染対策のため開催されていない」が2割を超え、他の年齢と比べて割合が高くなっている。

1 - (12) 家族以外の人との会話が不足していない、あるいは欲しくない理由

(14) 先の設問 (12) の回答で「思わない」「どちらかと言えば思わない」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。もっとも理由に近いものを1つお選びください。

全体(n=578)



「他の人との会話は十分にできている」が4割弱

【全体結果】

家族以外との会話が不足していない、あるいは欲しくない理由について、「他の人との会話は十分にできている」が4割弱で割合が最も高い。次いで「新型コロナウイルス対策のため」が2割強、「一人であることが好きだから」が1割半ばとなっている。

【属性比較】

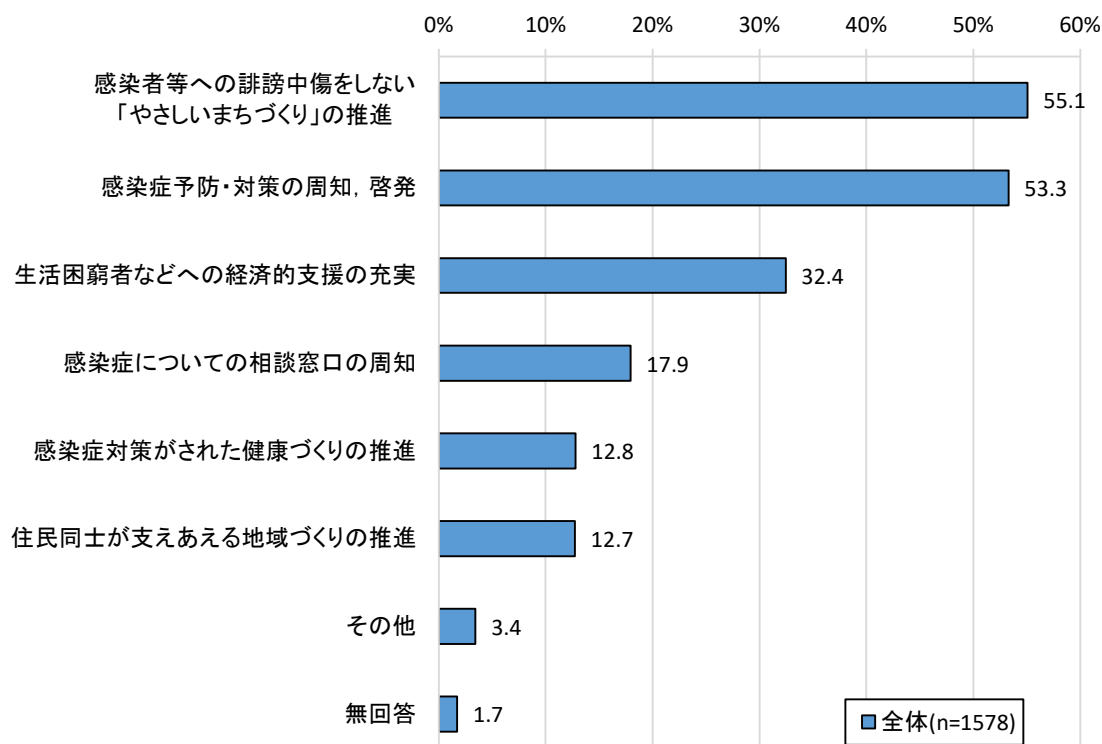
圏域別でみると、すべての圏域で「他の人との会話は十分にできている」が最も高く、内野・赤塚・中野小屋圏域、五十嵐圏域では4割を超えている。次いでどの圏域も「新型コロナウイルス対策のため」の割合が高い。内野・赤塚・中野小屋圏域、坂井輪圏域、黒埼圏域では「新型コロナウイルス対策のため」の割合が、他の圏域と比べて高くなっている。

性別でみると、男女とも「他の人との会話は十分にできている」が最も高く、次いで「新型コロナウイルス対策のため」の割合が高い。男性よりも女性で「他の人との会話は十分にできている」の割合が高くなっている。一方で、男性では「新型コロナウイルス対策のため」「話したいことがない」が女性より高くなっている。

年齢別でみると、60歳代を除く年齢で「他の人との会話は十分にできている」が最も高く、60歳代では「新型コロナウイルス対策のため」の割合が最も高く、50～80歳代でも2割を超えている。

1 - (13) 不安等を解消するために大切だと思うこと

(15) 新型コロナウイルス禍での困りごとや不安を解消するために、あなたが大切だと思うことは何ですか。(最大2つまで)



「感染症等への誹謗中傷をしない『やさしいまちづくり』の推進」が5割以上

【全体結果】

不安等を解消するために大切だと思うことについて、「感染症等への誹謗中傷をしない『やさしいまちづくり』の推進」が最も高く、次いで割合が高い「感染症予防・対策の周知、啓発」とともに5割を超えている。「生活困窮者などへの経済的支援の充実」が3割台で続いている。

【属性比較】

圏域別でみると、小針・小新圏域を除く圏域で、「感染症等への誹謗中傷をしない『やさしいまちづくり』の推進」が最も高い。特に坂井輪圏域、黒埼圏域で割合が高く、約6割を占めている。小針・小新圏域では、「感染症予防・対策の周知、啓発」が最も高くなっている。

性別でみると、男性では「感染症予防・対策の周知、啓発」が最も高く、女性では「感染症等への誹謗中傷をしない『やさしいまちづくり』の推進」が最も高くなっている。

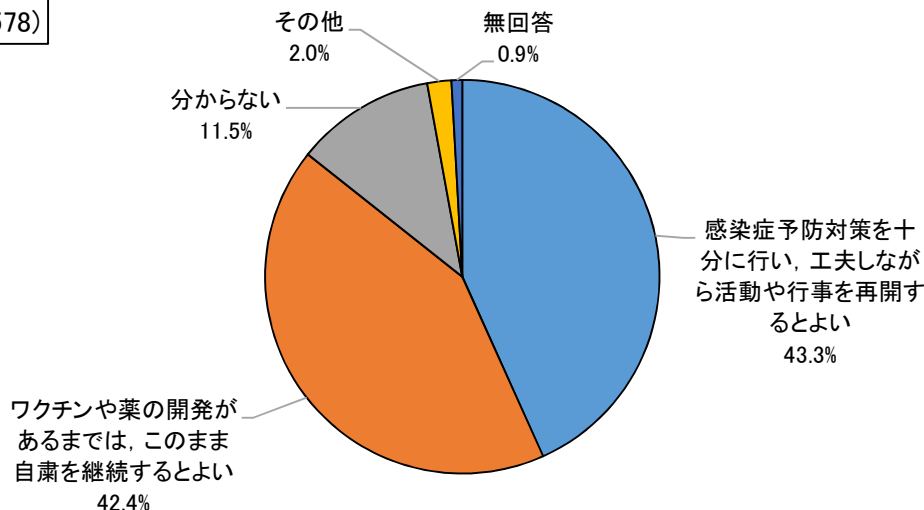
年齢別でみると、30歳代、80歳代以上を除く年齢で「感染症等への誹謗中傷をしない『やさしいまちづくり』の推進」が最も高くなっている。30歳代、80歳代以上では「感染症予防・対策の周知、啓発」が最も高くなっている。

2 地域の福祉や活動について

2 - (1) 活動の再開や自粛についての考え

(16) 新型コロナウイルス禍により、様々な地域活動や地域の行事が自粛されました。現在は徐々に活動を再開している地域や団体もありますが、依然として活動を自粛している地域や団体もあります。そこで、こういった活動の再開や自粛について、あなたの考えをお聞かせください。

全体(n=1578)



「感染症予防対策を十分に行い、工夫しながら活動や行事を再開するとよい」が4割以上

【全体結果】

活動の再開や自粛についての考えについて、「感染症予防対策を十分に行い、工夫しながら活動や行事を再開するとよい」「ワクチンや薬の開発があるまでは、このまま自粛を継続するとよい」がともに4割以上を占め、わずかに「感染症予防対策を十分に行い、工夫しながら活動や行事を再開するとよい」の割合が上回る結果となっている。

【属性比較】

圏域別でみると、黒埼圏域を除く圏域では、「感染症予防対策を十分に行い、工夫しながら活動や行事を再開するとよい」が最も高く、黒埼圏域では、「ワクチンや薬の開発があるまでは、このまま自粛を継続するとよい」が5割弱で、割合が最も高くなっている。

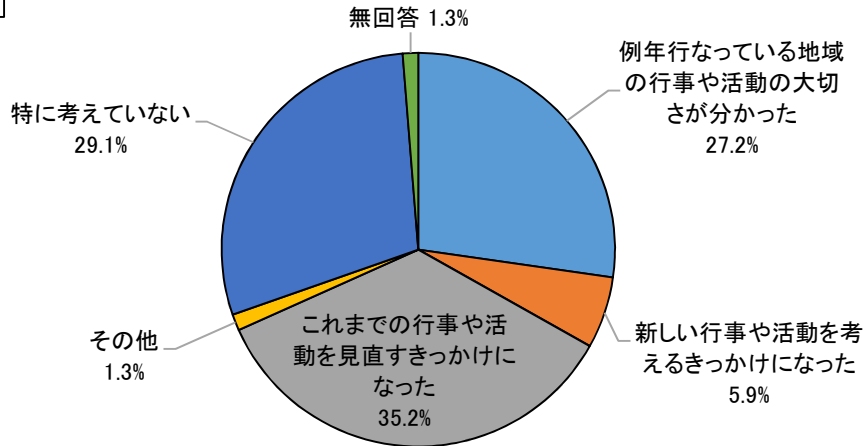
性別でみると、男性は「ワクチンや薬の開発があるまでは、このまま自粛を継続するとよい」が最も高く、女性は「感染症予防対策を十分に行い、工夫しながら活動や行事を再開するとよい」が最も高い。

年齢別でみると、40歳代以下、70歳代では、「感染症予防対策を十分に行い、工夫しながら活動や行事を再開するとよい」が最も高く、特に29歳以下では6割弱を占めている。一方、50～60歳代、80歳代以上では、「ワクチンや薬の開発があるまでは、このまま自粛を継続するとよい」が最も高く、特に60歳代では5割以上となっている。90歳以上は「分からない」が3割以上を占め、他の年齢と比べて割合が高い。

2 - (2) 地域活動について思ったこと

(17) 新型コロナウイルス禍による地域活動や行事の自粛により、改めて地域活動について思ったことは何ですか。

全体(n=1578)



「これまでの行事や活動を見直すきっかけになった」が3割以上

【全体結果】

地域活動について思ったことについて、「これまでの行事や活動を見直すきっかけになった」が3割半ばを占め、最も高くなっている。次いで「特に考えていない」「例年行っている地域の行事や活動の大切さが分かった」が3割弱となっている。

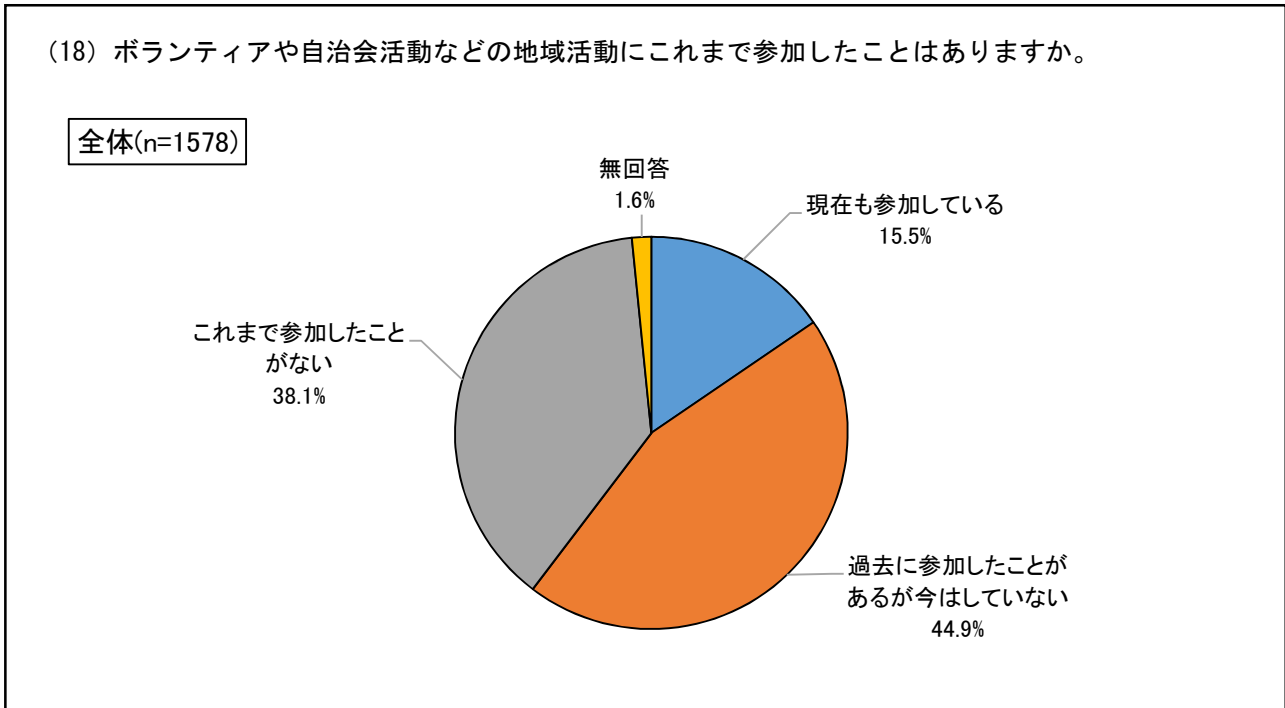
【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「これまでの行事や活動を見直すきっかけになった」が最も高い。次いで、内野・赤塚・中野小屋圏域を除く圏域では、「特に考えていない」が高く、内野・赤塚・中野小屋圏域では、「例年行っている地域の行事や活動の大切さが分かった」が高く3割以上を占めている。

性別でみると、男女とも「これまでの行事や活動を見直すきっかけになった」が最も高い。次いで、男性では「特に何も考えていない」が高く3割以上を占め、女性では「例年行っている地域の行事や活動の大切さが分かった」が高く3割弱となっている。

年齢別でみると、30～60歳代で「これまでの行事や活動を見直すきっかけになった」が最も高く、40～60歳代では4割を超えている。29歳以下、70歳代では「例年行っている地域の行事や活動の大切さが分かった」が最も高く、80歳以上では「特に考えていない」が最も高い。

2 - (3) 地域活動への参加有無



「過去に参加したことがあるが今はしていない」が4割以上

【全体結果】

地域活動への参加有無について、「現在も参加している」が1割半ば、「過去に参加したことがあるが今はしていない」が4割半ば、「これまで参加したことがない」が4割弱となっている。「過去に参加したことがあるが今はしていない」と答えた割合が最も高い結果となっている。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「過去に参加したことがあるが今はしていない」が最も高く、特に坂井輪圏域では5割弱を占め、他の圏域と比べて割合がやや高くなっている。

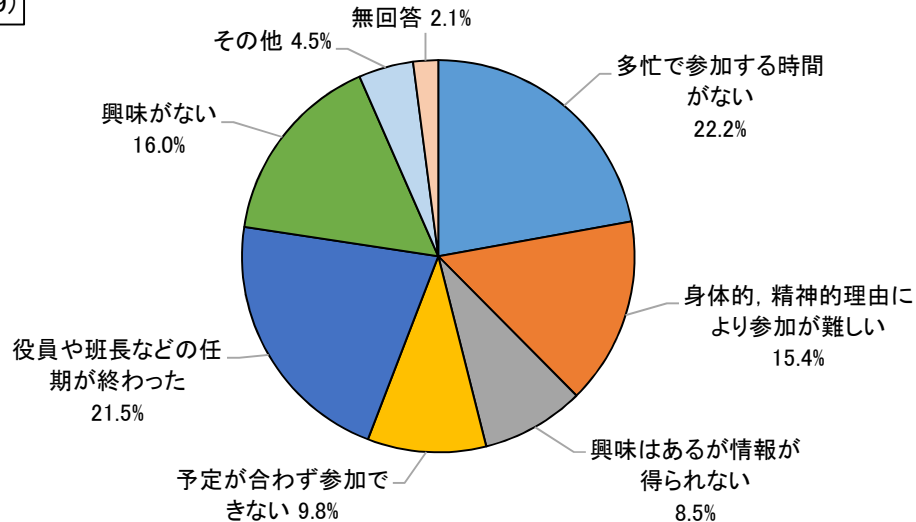
性別でみると、男性は「これまで参加したことがない」が4割以上で最も高く、女性は「過去に参加したことがあるが今はしていない」が5割弱で最も高くなっている。男性は「現在も参加している」が女性と比べてやや高くなっている。

年齢別でみると、40歳代以上で「過去に参加したことがあるが今はしていない」が最も高い。30歳代以下では、「これまで参加したことがない」が最も高く、5割以上を占めている。50～70歳代では、他の年齢と比べて「現在も参加している」と答えた割合が高い。

2 - (4) ボランティアや地域活動への考えや現況

(19) 先の設問 (18) の回答で「過去に参加したことがあるが今はしていない」または「これまで参加したことがない」と答えた方にお聞きします。
ボランティアや地域活動について、あなたの考えや現況に最も近いものを選んでください。

全体(n=1309)



「多忙で参加する時間がない」が2割以上

【全体結果】

ボランティアや地域活動への考えや現況について、「多忙で参加する時間がない」が最も高く、「役員や班長などの任期中がなくなった」とともに2割以上を占めている。また、「興味はあるが情報が得られない」と答えた人が1割弱いた。

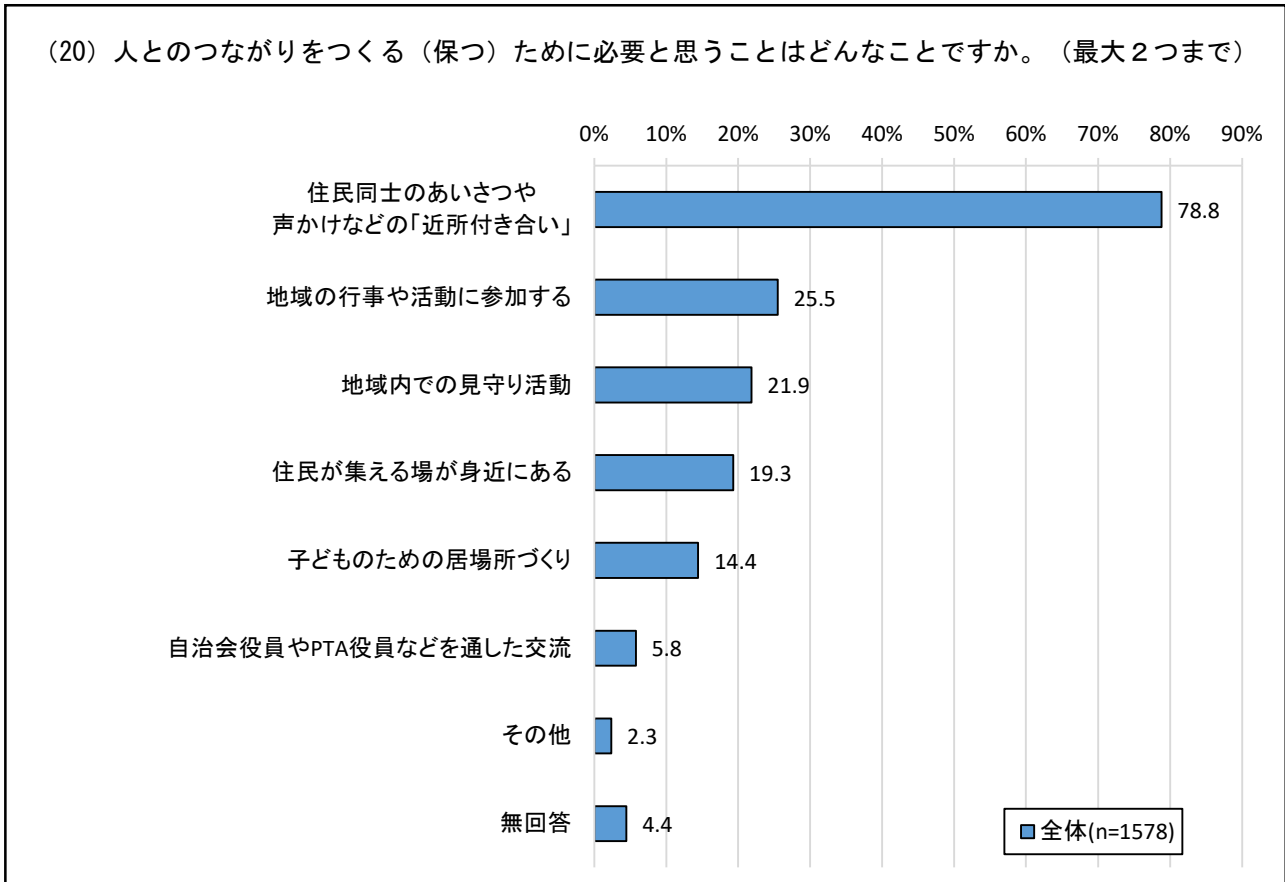
【属性比較】

圏域別でみると、内野・赤塚・中野小屋圏域、小針・小新圏域では「多忙で参加する時間がない」が最も高く、それ以外の圏域では「役員や班長などの任期中がなくなった」が最も高くなっている。坂井輪圏域では、他の圏域と比べて「身体的、精神的理由により参加が難しい」の割合がやや高くなっている。

性別でみると、男性は女性と比べて「興味がない」と答えた割合が高く、約2割を占めている。一方、女性は男性と比べて「身体的、精神的理由により参加が難しい」の割合が高くなっている。

年齢別でみると、40歳代以下では、「多忙で参加する時間がない」が最も高く、特に30歳代以下で4割を超えている。50～70歳代では「役員や班長などの任期中がなくなった」が最も高く、80歳代以上では「身体的、精神的理由により参加が難しい」が最も高い。29歳以下では「興味がない」が約3割を占めている。概ね、年齢が低いほど「多忙で参加する時間がない」「興味がない」の割合が高く、年齢が高いほど「身体的、精神的理由により参加が難しい」の割合が高い傾向がみられる。また、29歳以下と70歳代では「興味はあるが情報が得られない」の割合が、他の年齢と比べて高い。

2 - (5) 人とのつながりをつくる（保つ）ために必要なこと



「住民同士のあいさつや声かけなどの『近所付き合い』」が約8割

【全体結果】

人とのつながりをつくる（保つ）ために必要なことについて、「住民同士のあいさつや声かけなどの『近所付き合い』」が8割弱で最も高く、他の項目と比べて突出している。次いで、「地域の行事や活動に参加する」が2割半ば、「地域内での見守り活動」が2割強、「住民が集える場が身近にある」が2割弱で続いている。

【属性比較】

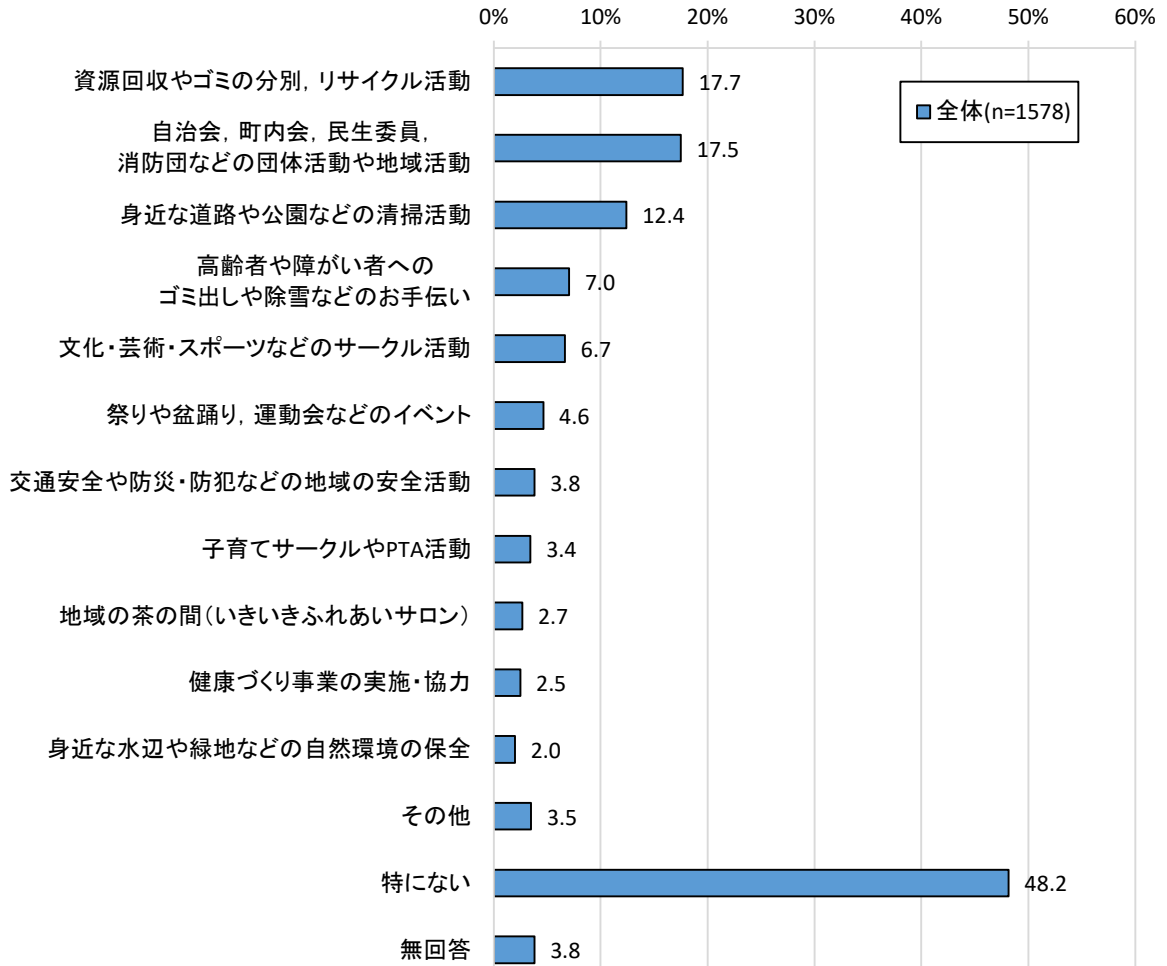
圏域別でみると、すべての圏域で「住民同士のあいさつや声かけなどの『近所付き合い』」が約8割で最も高い。黒埼圏域では「地域の行事や活動に参加する」が他の圏域と比べてやや高く、内野・赤塚・中野小屋圏域では「住民が集える場が身近にある」が他の圏域と比べて割合が高くなっている。

性別でみると、男女とも「住民同士のあいさつや声かけなどの『近所付き合い』」が最も高い。男性は女性と比べて「地域の行事や活動に参加する」が高く、女性は男性と比べて「住民が集える場が身近にある」の割合が高くなっている。

年齢別でみると、すべての年齢で「住民同士のあいさつや声かけなどの『近所付き合い』」が最も高く、特に60～80歳代で高く、8割を超えている。29歳以下、70～90歳以上では、「住民が集える場が身近にある」が他の年齢と比べて高くなっている。40歳以下では、「子どものための居場所づくり」が他の年齢と比べて割合が高く、30歳代では3割を超えている。

2 - (6) 地域のために『現在』協力していること

(21) あなたが地域のために、現在、協力している地域活動やボランティアがあれば教えてください。
(最大3つまで)



「特にない」が約5割

【全体結果】

地域のために『現在』協力していることについて、「特にない」が約5割で最も高い。「特にない」を除いた項目では、「資源回収やゴミの分別, リサイクル活動」「自治会, 町内会, 民生委員, 消防団などの団体活動や地域活動」の2項目で割合が高く、2割弱を占めている。「身近な道路や公園などの清掃活動」が1割台で続いている。

【属性比較】

※どの属性も「特にない」が最も高いため、「特にない」のコメントについては割愛する。

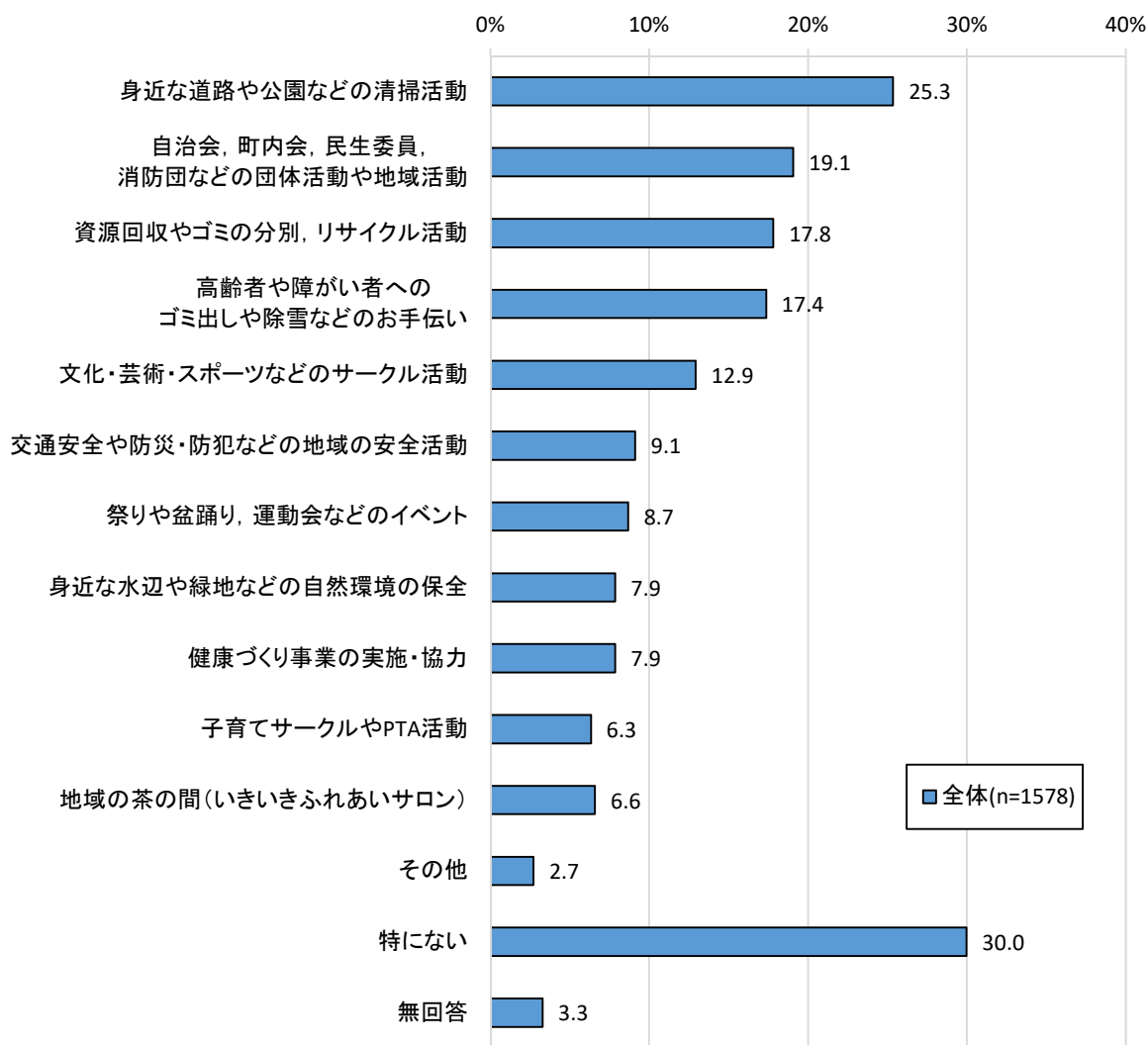
圏域別でみると、小針・小新圏域、坂井輪圏域、黒埼圏域で、「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」「自治会、町内会、民生委員、消防団などの団体活動や地域活動」「身近な道路や公園などの清掃活動」の順に割合が高い。一方、内野・赤塚・中野小屋圏域、五十嵐圏域では、「自治会、町内会、民生委員、消防団などの団体活動や地域活動」「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」「身近な道路や公園などの清掃活動」の順に割合が高い。

性別でみると、男性では「自治会、町内会、民生委員、消防団などの団体活動や地域活動」が最も高く、女性では「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」が最も高い。女性より男性で「身近な道路や公園などの清掃活動」と答えた割合が高く、1割半ばを占めている。

年齢別でみると、30～60歳代では、「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」「自治会、町内会、民生委員、消防団などの団体活動や地域活動」「身近な道路や公園などの清掃活動」の順に割合が高い。60～70歳代では、「身近な道路や公園などの清掃活動」と答えた割合が他の年齢と比べて高くなっている。90歳以上は「地域の茶の間（いきいきふれあいサロン）」と答えた割合が1割を超えている。年齢が高くなるほど「地域の茶の間（いきいきふれあいサロン）」「健康づくり事業の実施・協力」の割合が高くなる傾向がみられる。

2-(7) 地域のために『今後』協力可能なこと

(22) あなたが地域のために、今後、協力可能な地域活動やボランティアがあれば教えてください。
(最大3つまで)



「特にない」が3割、「身近な道路や公園などの清掃活動」が2割以上

【全体結果】

地域のために『今後』協力可能なことについて、「特にない」が3割で最も高い。「特にない」を除いた項目では、「身近な道路や公園などの清掃活動」が2割以上を占め、以下、「自治会、町内会、民生委員、消防団などの団体活動や地域活動」「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」「高齢者や障がい者へのゴミ出しや除雪などのお手伝い」「文化・芸術・スポーツなどのサークル活動」が1割台で続いている。

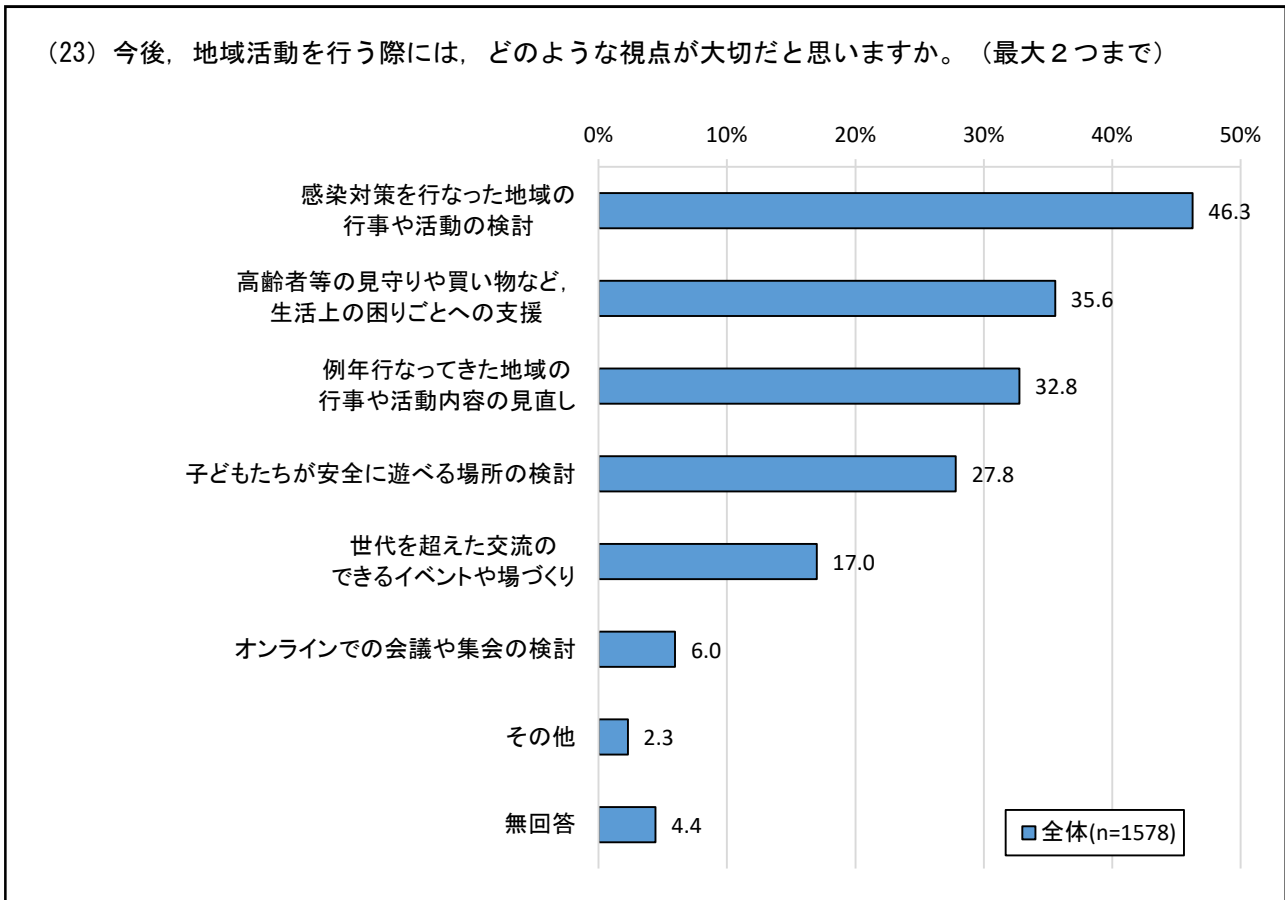
【属性比較】

圏域別でみると、内野・赤塚・中野小屋圏域、黒埼圏域では、「身近な道路や公園などの清掃活動」が最も高く、「特にない」を上回っている。黒埼圏域では、「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」、五十嵐圏域では、「高齢者や障がい者へのゴミ出しや除雪などのお手伝い」が他の圏域と比べてやや高くなっている。

性別でみると、女性より男性で割合が高い項目は、「身近な道路や公園などの清掃活動」「自治会、町内会、民生委員、消防団などの団体活動や地域活動」「交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動」「祭りや盆踊り、運動会などのイベント」「身近な水辺や緑地などの自然環境の保全」となっている。一方、男性より女性で割合が高い項目は、「資源回収やゴミの分別、リサイクル活動」「子育てサークルやPTA活動」「地域の茶の間（いきいきふれあいサロン）」となっている。

年齢別でみると、30歳代、50～60歳代では、「身近な道路や公園などの清掃活動」が最も高く、「特にない」を上回っている。特に60歳代では3割を超えている。29歳以下では、「文化・芸術・スポーツなどのサークル活動」が2割弱で、他の年齢と比べて割合がやや高い。30～40歳代では、「子育てサークルやPTA活動」が、他の年齢と比べて割合が高い。概ね、年齢が低いほど「祭りや盆踊り、運動会などのイベント」「子育てサークルやPTA活動」の割合が高く、年齢が高いほど「地域の茶の間（いきいきふれあいサロン）」の割合が高い傾向がみられる。

2 - (8) 今後の地域活動を行うために必要な視点



「感染対策を行った地域の行事や活動の検討」が4割以上

【全体結果】

今後の地域活動を行うために必要な視点について、「感染対策を行った地域の行事や活動の検討」が最も高く、4割を超えている。次いで「高齢者等の見守りや買い物など、生活上の困りごとへの支援」「例年行ってきた地域の行事や活動内容の見直し」が3割台、「子どもたちが安全に遊べる場所の検討」が2割台で続いている。

【属性比較】

圏域別でみると、すべての圏域で「感染対策を行った地域の行事や活動の検討」が最も高く、特に坂井輪圏域では5割を超えている。また、坂井輪圏域では「オンラインでの会議や集会の検討」も、他の圏域と比べて割合が高い。内野・赤塚・中野小屋圏域では、「子どもたちが安全に遊べる場所の検討」が他の圏域と比べて高くなっている。

性別でみると、男女とも「感染対策を行った地域の行事や活動の検討」が最も高い。男性と比べて女性で、「高齢者等の見守りや買い物など、生活上の困りごとへの支援」「子どもたちが安全に遊べる場所の検討」と答えた割合が高くなっている。

年齢別でみると、30歳代、80歳以上を除く年齢で「感染対策を行った地域の行事や活動の検討」が最も高い。30歳代では、「子どもたちが安全に遊べる場所の検討」が最も高く、7割弱を占めている。80歳以上では、「高齢者等の見守りや買い物など、生活上の困りごとへの支援」の割合が最も高い。

新型コロナウイルス禍による
日常生活や地域福祉への影響に関する
アンケート調査報告書

発行日 令和3年6月
発行 新潟市西区役所 健康福祉課

〒950-0914 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号
電話番号 025-264-7315（直通）